

あいち農産物生産流通レポート

2026年8月号

ページ

◎ マンスリーレポート

- ・ 6次産業化優良事例について (食育消費流通課) 1

◎ 地域トピックス

- ・ 豊田市の取組「野菜を食べよう！地産地食デジタルスタンプラリー」 (豊田加茂農林水産事務所) 3
- ・ 農林水産大臣賞を受賞した「奥三河高原ジビエの森」 (新城設楽農林水産事務所) 4

◎ 東京レポート

- ・ 京浜市場愛知県野菜連絡会が2026年秋冬作に向けて販売反省会を開催 (東京事務所) 5

- ◎ 東京都中央卸売市場における主要な愛知産青果物の動向 (東京事務所) 6

◎ 花 き

- ・ 切花・鉢花の見通し(県内市場) (食育消費流通課) 8

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

6次産業化優良事例について

食育消費流通課

愛知県では、農林漁業者等の所得向上を通じて農山漁村地域の活性化を図る重要な取組として6次産業化を推進してきました。2026年3月に策定した第3期愛知県6次産業化推進戦略(※1)では、地域の団体・企業を始めとした多様な主体との連携を強化しながら、地域資源を活用した高付加価値の創出を推進していくこととしています。

そこで、地域資源を活用した付加価値の創出に取り組む県内の農林漁業者等の優良事例を調査しましたので概要を紹介します。なお、県の Web ページ（※２）では詳細な情報を掲載しております。

(※1) https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/635895_2927942_misc.pdf

(※2) <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shokuiku/6jikajirei.html>

【6次産業化優良事例（2025年度調査）】

～たまごで人を幸せに～

株式会社デイリーファーム（常滑市）

地元産の米を飼料とした付加価値の高い卵を生産するとともに、消費者認知の向上を目的とした洋菓子店・農家レストラン・ベーカリーカフェからなる6次産業化施設にて、卵や地元食材を活用した商品を提供している。

また、地元農家を巻き込んだマルシェやとこなめ観光協会・名鉄観光等と連携した体験ツアーといった地域の魅力発信、中学生と連携した新商品開発等にも取り組んでいる。



「農福商工連携」で居場所をつくる

株式会社コトモファーム（犬山市）

コトモファームは、農業・加工・販売を自社一貫で行うことで、多様な工程を活かした“誰ひとり取り残さない”働く場を創出している。また、自社栽培米を使用した100%米粉スイーツなど地域資源を活かした商品づくりは独自性が高く、農業・福祉・商工を結ぶ「農福商工連

さらに、地域企業・行政・観光地との協働により、商品と働く場の両面で地域に貢献している。



地域の食材を生かしたおもてなしを目指して

名倉高原生産組合（設楽町）

地域の農家のお母さんたちが細々と守り続けてきたエゴマを再び地域内で生産・拡大し、その希少なエゴマを使ったエゴマ五平餅を道の駅で販売をしている。また、地域の様々な困りごとに目を向けて新しい手作り食品を開発し、地域に価値を生み出している。



次郎柿の加工品開発

百年柿園ベル・ファーム（豊橋市）

高品質な柿の生産と販売だけでなく、FOOD ACTION NIPPON AWARD 2019 入賞等を受賞した「次郎柿チップス」や土産物企画会社とコラボして作られた「豊橋ではこれが柿ピー」など、特色ある加工品開発と販売も行うことで、効果的に自園をPRしている。



米やぶどうを使った発酵食品の開発・販売

株式会社 ideai（アイデア!）（日進市）

日本初の米とホップで醸した全く新しいビアテイスト飲料「Rize（ライズ）」の開発・販売など、眞柄氏の豊富な発酵の知識を強みとした酒類の開発・販売を行っている。

また、本飲料では就労継続支援B型一般社団法人セブンス・ファクトリーに作業委託することで栽培した農産物を原料として使用している。



蜂蜜を生かした万能調味料の加工・販売

有限会社愛光園（小牧市）

蜂蜜の販路拡大に向けて「愛知のみそ文化」に着目し、西尾市の老舗みそ蔵「はと屋」と連携して、豆味噌と蜂蜜を使用した「ごはんに合う蜂蜜のおみそ」を完成させた。

豆の食感も楽しめるよう丁寧に作られており、ごはんはもちろん豆腐、野菜、肉など様々な食材に合う味で、リピーターを獲得している。



ぶどう栽培からワイン製造まで全てを岡崎で

岡崎市果樹振興会（岡崎市）

岡崎市内の多様な機関の連携により誕生した純岡崎産ワイン「葵の雫」は、市内9農園のぶどうが使用されており、補糖・補酸を行わないこだわりの製法で醸造されている。名称やラベルには公募や地元学生のデザインによるものが使用され、地域の特色や思いが込められている。



防災用おにぎりを通じた地域連携モデルの確立

株式会社 NAO RICE（半田市）

自社生産米の価値を高めるため、防災用おにぎりなどの開発・加工・販売やSNS 通じた農業や地域文化、生産者の魅力の発信に取り組んでいる。

また、「にじのきらめき」の導入や再生二期作の活用し、生産拡大や加工原料の安定確保、売り上げ向上を目指している。



豊田市の取組「野菜を食べよう！地産地食デジタルスタンプラリー」

豊田加茂農林水産事務所

豊田市は、2026 年 8 月 1 日から 9 月 30 日まで、豊田市内の対象店舗で「野菜を食べよう！地産地食デジタルスタンプラリー」を開催します。

同市は 2023 年から 8 月 31 日の「野菜の日」に合わせ、市民のさらなる野菜摂取の推進と地産地食への関心を高めるために企画しています。なお、市民以外の方も参加可能です。

1 地産地食とは

地域で生産された農林水産物をその地域内で消費することを「地産地消」と言います。

豊田市は、この取組をさらに広げるために、地域の農産物を地域で「食べる」ことを強調して「地産地食」と呼称しています。

2 対象店舗

豊田市食品衛生協会や豊田市地産地食応援店に加盟する店が参加しており、約 35 店舗で、野菜を豊富に使ったメニューまたは地産地食メニューを提供します。

3 参加方法

まず、豊田市公式 LINE を登録します。参加者は対象商品・メニューを購入後、スマートフォンで二次元コードを読み取ってスタンプを獲得します。なお、1 日にスタンプが獲得できるのは 1 店舗だけです。

獲得したスタンプの個数によって抽選で豊田市の名産品が当たります。

4 豊田市の開催する食のイベント

本年は「とよたの恵みを集めろ！スイーツクエスト（6 月 13 日：終了）」や「ぐるっと！アジアグルメラリー 2026 in とよた（6 月 13 日～10 月 25 日）」、「農産物直売所スタンプラリー（7 月 18 日～10 月 12 日）」も開催されています。連動しているイベントもありますので、同時参加をお勧めします。

豊田市は、毎年、地元農産物の PR や地産地食の推進のためのイベントを行っており、今後も様々な企画を実施する予定です。



2026 年スタンプラリーのチラシ

農林水産大臣賞を受賞した「奥三河高原ジビエの森」

新城設楽農林水産事務所

北設楽郡設楽町津具地区にある「奥三河高原ジビエの森」は、奥三河つぐ高原グリーンツーリズム推進協議会が2015年4月に設置した食肉処理加工施設です。同協議会は地域の農業者を中心に組織されており、奥三河地域で捕獲された野生鳥獣を地域資源として有効活用するため、ジビエの処理加工から販売までを一貫して行っています。

近年、シカやイノシシによる農林業被害が課題となる中、当施設では衛生的な食肉処理を行うことで、地域の捕獲者の負担軽減と安心・安全なジビエの供給を実現しています。施設の運営は、厚生労働省の「野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針」や愛知県のガイドラインに基づいて行われており、高品質な奥三河産ジビエの提供につながっています。



(左) 処理施設と併設された直売所



(右) 直売所

1 地域資源を活かした取組

施設では、狩猟免許を持つスタッフが捕獲者から連絡を受け、シカなどの止め刺しから施設への搬入までを原則1時間以内に実施しています。その後、解体処理、精肉加工、商品化までを一貫して行い、鮮度と品質の維持に努めています。

ジビエ肉は、近隣の道の駅や全国の飲食店へ出荷されるほか、ジビエフランクフルトや唐揚げなどに加工し、県内外のイベントにも積極的に出店することで、奥三河産ジビエの魅力を広く発信しています。また、食肉利用に適さない部位についても、ペット用ジャーキーの原料として活用するなど、資源の有効利用を進めています。

2 農林水産大臣賞を受賞

「奥三河高原ジビエの森」は令和7年度鳥獣対策優良活動表彰（捕獲鳥獣利活用部門）において最高賞である農林水産大臣賞を受賞しました。捕獲した野生鳥獣を地域資源として有効活用し、農林業被害の軽減と地域振興を両立している点が高く評価されました。

施設の処理実績も着実に伸びており、シカの搬入・処理加工頭数は2015年度の203頭から2025年度には500頭へと増加しました。今後は、安全で高品質なジビエの安定供給を通じて、奥三河ブランドの価値向上や販路拡大に加え、観光振興へのさらなる貢献が期待されています。



加工の様子（シカ肉）

京浜市場愛知県野菜連絡会が 2026 年秋冬作に向けて販売反省会を開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2026 年 7 月 14 日（火）に Alice aqua garden 品川（東京都品川区）において、京浜市場愛知県野菜連絡会（構成員：京浜地域の青果卸売会社 28 社、以下「連絡会」という。）の秋冬野菜販売反省会が開催されました。

1 2025 年作秋冬野菜の取扱実績

J A あいち経済連の京浜・関東市場における秋冬野菜の取扱実績が報告され、全体で数量 76 千トン（前年比 112%）、金額 244 億円（同 89%）となりました（表 1）。

キャベツでは、猛暑を避けるため定植時期を遅らせたことなどにより、不作だった前年よりも数量が大幅に増加しました。ミニトマトでは、厳寒期に順調な出荷が続き、前年よりも数量がかなり増加しました。ブロッコリーでは、12 月、1 月の出荷量が増加し、前年よりも数量は大幅に増加しました。

表 1 京浜・関東市場における 2025 年作主要品目の取扱実績（J A あいち経済連）

品目	数量（前年比） トン（%）	金額（前年比） 億円（%）
全体	76,159(112)	244(89)
キャベツ	48,267(119)	39(56)
トマト	7,772(100)	35(101)
ミニトマト	5,608(113)	44(107)
ブロッコリー	5,015(124)	14(92)
おおば	1,983(103)	61(104)

2 主要品目の情勢報告及び要望

(1) キャベツ

夏の猛暑の影響で、本県を含めた秋冬産地では定植時期を遅らせた結果、年末にかけて数量が多くなり、単価安で推移したことが報告されました。本県産地に対して、連絡会からは「再生産価格を維持する数値に基づいた相場形成」と「経済連、J A、市場が一体となった本県産キャベツの需要拡大に繋がる取組推進」が要望されました。

(2) トマト・ミニトマト

近年、猛暑により秋口は高値傾向であること、量販店ではミニトマトの売場の比率が高くなり、熊本県ではトマトからミニトマトへの転換が進んでいることが報告されました。本県産地に対して、連絡会からは「着色の統一、食味の向上、本県産のブランド強化」と「2～3 週間前からの産地の情報提供」などが要望されました。

(3) ブロッコリー

2026 年 4 月から指定野菜に追加されて注目度が高まり、量販店からの引き合いが強くなっていることが報告されました。連絡会からは、安定した販売につなげるために「経済連を中心とした産地との情報共有と連携強化」が要望されました。

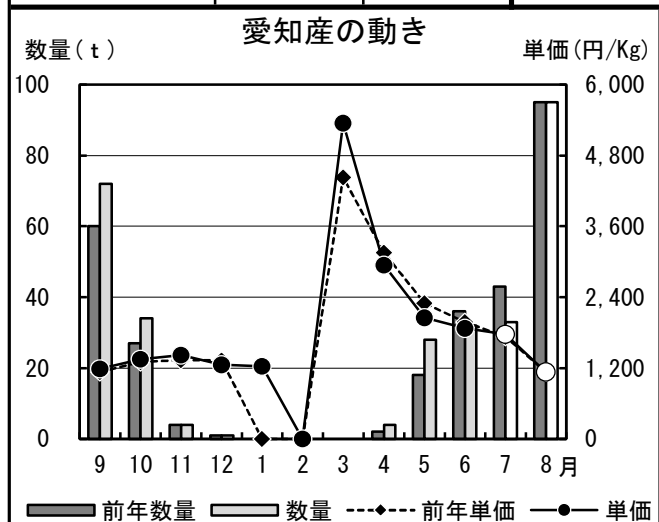
2026 年作に向けて、京浜市場では本県農産物の販売強化を図るため、連絡会から本県産地に対して、販売を考慮した価格設定や品質の安定、そして、産地の生産状況や出荷計画などしっかり情報共有してほしいとの要望が多い傾向となりました。

東京都中央卸売市場における8月の主要な愛知産青果物の動向

1 翌月の見通し

品目名 いちじく

実績等	区分	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)	市場からの提言等
実績	2021年	230	891	愛知 38%	愛知は、入荷量が多く品質も良いが、今年は7月中旬からカビ果が目立つので、産地には検品をしっかりと行い、品質の維持を求めたい。また、入荷量を確保するために今後も生産規模の維持をお願いしたい。
	2022年	259	904	和歌山 35%	
	2023年	253	932	静岡 10%	
	2024年	228	1,068		
	2025年	246	1,090		
	5ヵ年平均	243	976		
	2026年見通し	240	1,090		

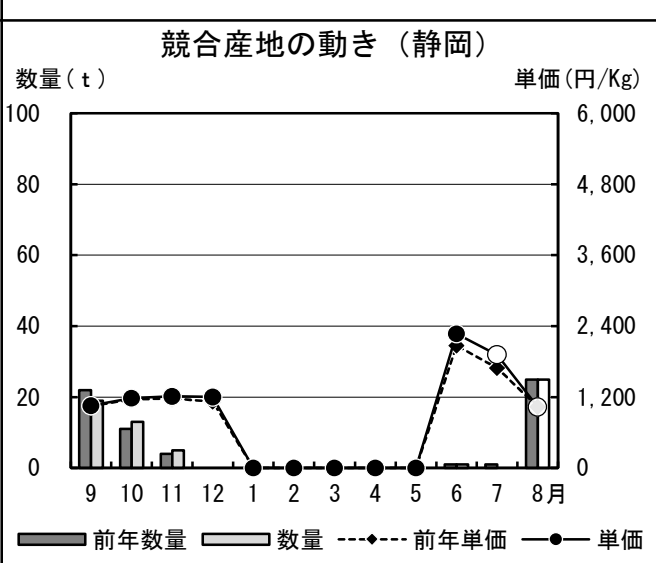
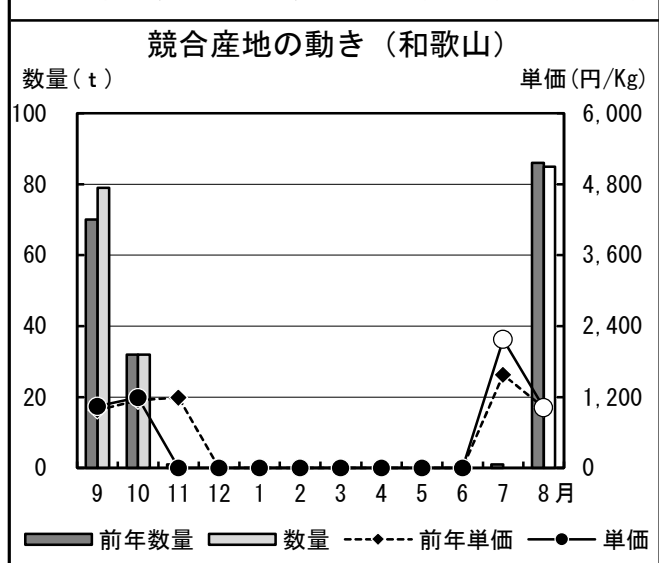


産地概況

本県の作付面積は前年並。7月下旬から露地物が入荷が始まる。入荷量は前年並みで、2Lサイズ中心の大玉傾向。入荷ピークは8月中旬で、11月上旬まで続く見込み。生育状況は順調であるものの、7月中旬からカビ果の発生が多い。

和歌山は前年並の入荷量で、8月中旬に入荷ピークを迎える見込み。前年より降雨に恵まれ、玉サイズは3L、2L中心の大玉傾向となる見込み。

静岡は前年並の入荷量で、8月中下旬に入荷ピークを迎える。玉サイズは3L、2L中心の大玉傾向の見込み。



2 入荷量・価格の動き

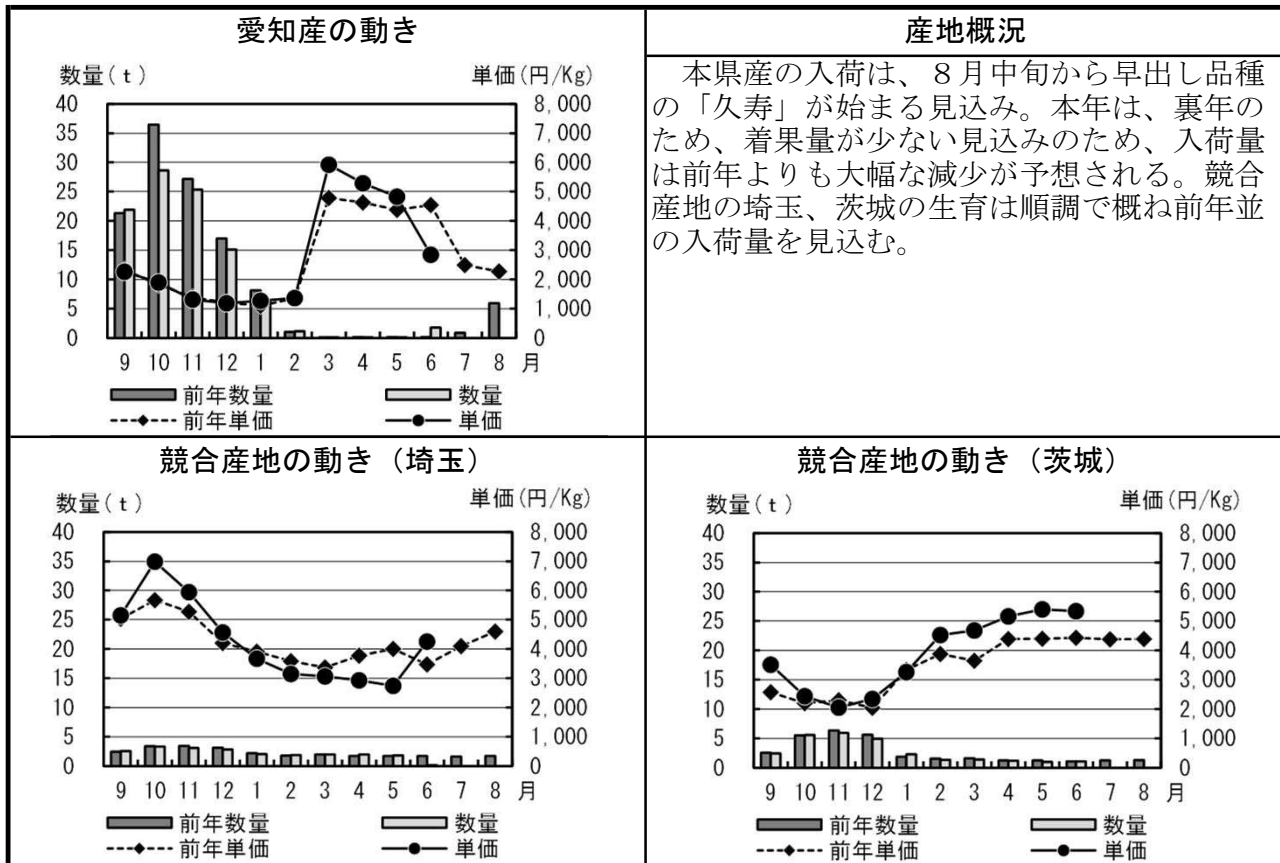
品目名 ぎんなん

前年上位3産地 (%)

愛知 62%

埼玉 18%

茨城 14%



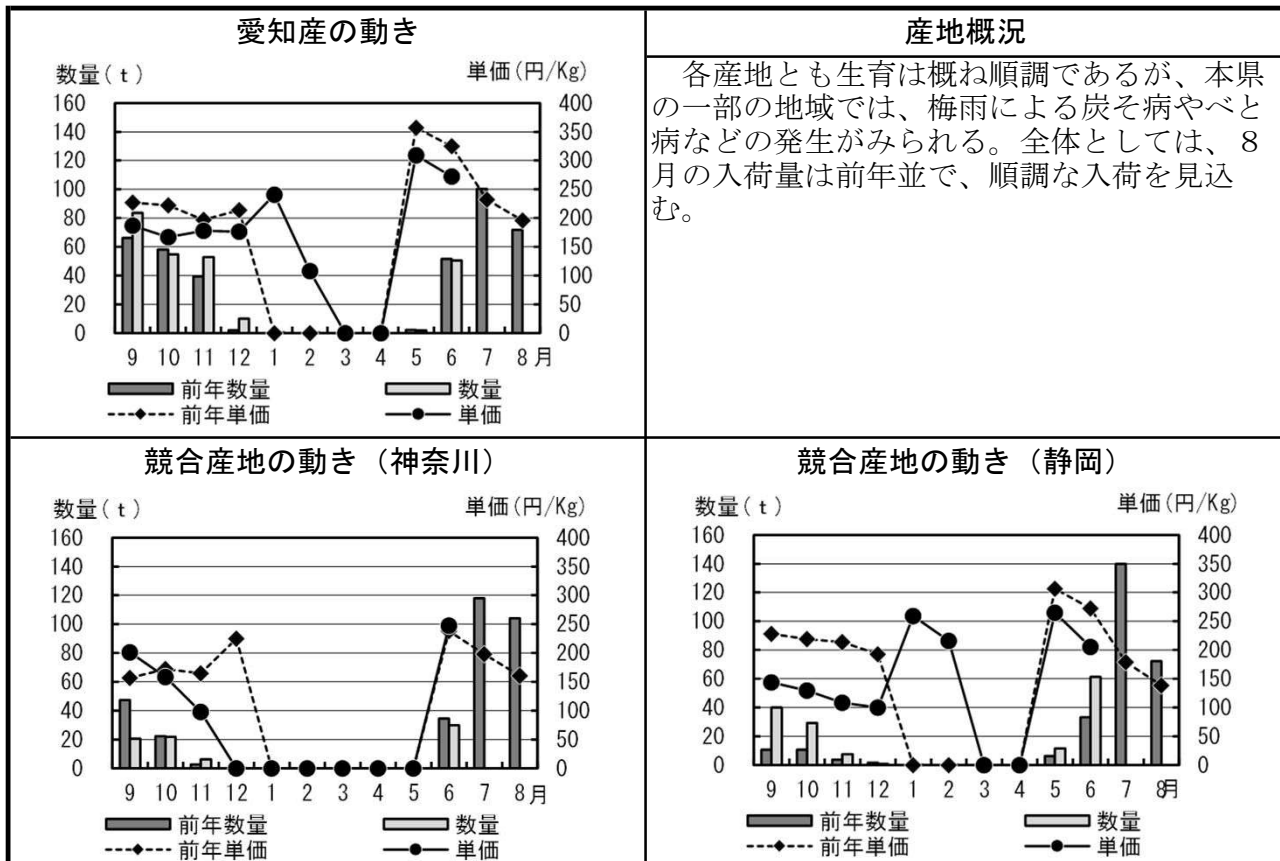
品目名 とうがん

前年上位3産地 (%)

神奈川 36%

静岡 25%

愛知 25%



切花・鉢花の8月の見通し

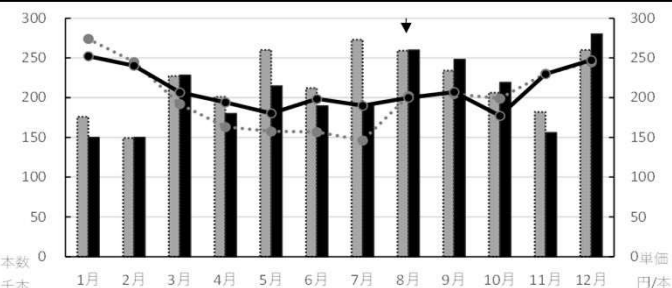
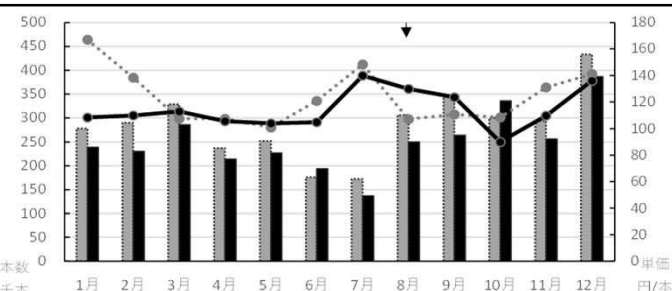
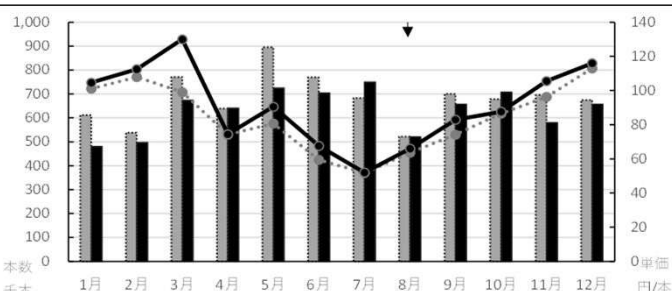
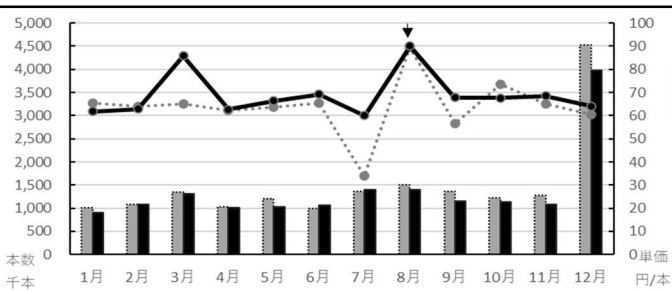
前年・数量 前年・単価
 当年・数量 当年・単価

切花（愛知名港花き地方卸売市場 8月現在）

単位：千本、円／本

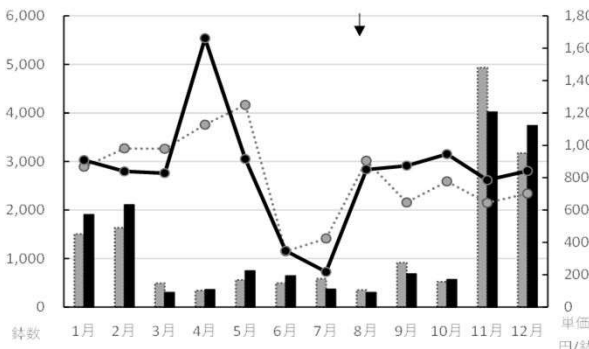
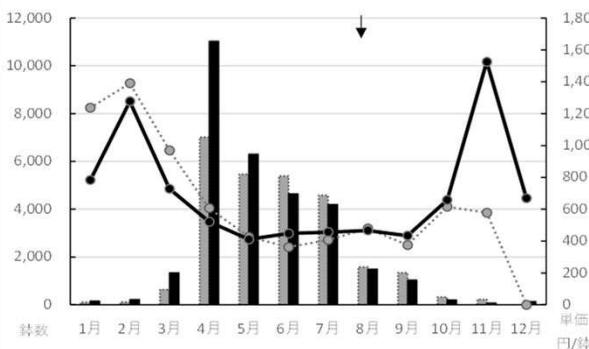
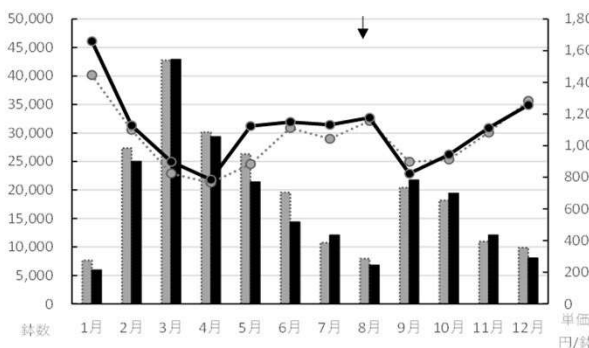
品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ く	実績	2021年	2,008	59	
		2022年	2,110	64	
		2023年	1,634	65	
		2024年	1,590	74	
		2025年	1,600	70	
	5ヵ年平均		1,788	66	
	2026年見通し		1,700	72	
概要	愛知・長野を中心に入荷見込み。今年は6月気温が低く、梅雨明けは平均的であったことから、高温による生育抑制は例年ほどかかってない。このため、例年より2日ほど生育が前進する見込みで、お盆商戦仕入れ日の3日・5日・7日にピークを迎え、後半は激減の予想。				
小 ぎ く	実績	2021年	1,597	39	
		2022年	1,837	41	
		2023年	1,319	47	
		2024年	999	55	
		2025年	1,406	37	
	5ヵ年平均		1,432	44	
	2026年見通し		1,300	42	
概要	愛知・長野・長崎・埼玉・岩手から入荷見込み。今年は前年とは違い、生育はやや前進で順調な出荷。3日・5日が出荷ピークの見込み。後半は品薄の予想。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2021年	1,027	44	
		2022年	1,197	59	
		2023年	1,053	60	
		2024年	1,250	59	
		2025年	1,226	49	
	5ヵ年平均		1,151	54	
	2026年見通し		1,000	65	
概要	今年は為替の上昇に伴う買付金額の上昇により、輸入品の入荷がしづらい。さらに国内産の生産量も減少しているため、全体の数量が減った分、単価は高く推移する見込み。				
か す み そ う	実績	2021年	109	102	
		2022年	154	115	
		2023年	143	115	
		2024年	165	109	
		2025年	135	112	
	5ヵ年平均		141	110	
	2026年見通し		130	115	
概要	福島・長野から入荷見込み。今年はスタート時こそ順調だったが、立ち枯れ等により数量が思いの外、多くない。7月後半から盆向けには例年並みの数量となる見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2021年	244	183	
		2022年	312	193	
		2023年	273	198	
		2024年	277	213	
		2025年	259	202	
	5カ年平均		273	198	
	2026年見通し		260	200	
概要	新潟・岐阜・埼玉・北海道から入荷見込み。全体的に生育は前進傾向のため、お盆用も若干前進し、後半は少なめになる見込み。テッポウユリは兵庫・愛媛・長野から、LAユリは新潟・埼玉から入荷見込み。				
洋らん	実績	2021年	294	110	
		2022年	331	129	
		2023年	191	167	
		2024年	314	136	
		2025年	306	107	
	5カ年平均		287	130	
	2026年見通し		250	130	
概要	愛知・鹿児島・静岡と輸入品の入荷見込み。カトレア・胡蝶蘭・シンビジウム等は近年販売単価が低調な上、生産コストの増加が重なり、需給バランスが崩れ、減少傾向にある。また、ほぼ輸入品が占めるデンファレ・オンシジウム等も為替の影響に伴う買付金額の上昇等により不安定な入荷が続く、減少傾向である。				
ばら	実績	2021年	398	58	
		2022年	607	64	
		2023年	520	69	
		2024年	542	70	
		2025年	522	64	
	5カ年平均		518	65	
	2026年見通し		520	66	
概要	山形・長野・愛知・岐阜に加え、月後半からは輸入品や三重からも入荷見込み。国内産は特に生育の遅れ等なく順調であるが、数量は若干少なめの傾向。				
枝もの	実績	2021年	1,399	83	
		2022年	1,717	78	
		2023年	1,347	85	
		2024年	1,416	88	
		2025年	1,511	89	
	5カ年平均		1,478	85	
	2026年見通し		1,400	90	
概要	山採り花木は高温の影響により減少傾向。盆用のアスター等も減少の見込み。リンドウは若干、生育が前進傾向。ホオズキは近年の高温により15%ほど減少の見込み。				

品目	区分 実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
アンズ リウム	実績	2021年	10,776	912
		2022年	11,722	989
	績	2023年	8,996	945
		2024年	9,738	939
		2025年	9,377	932
		5ヵ年平均	10,122	944
		2026年見通し	9,300	935
概要		入荷量は概ね前年並か。生産面では、4～6号を中心とした出荷構成での見通し、主力サイズの供給は一定水準を維持できる見込み。販売面では、赤以外の品種が堅調に推移の一方、赤系品種はやや動きが鈍く、色別での販売格差が明確。全体として安定供給が見込まれるが、売れ筋品種への注力と在庫バランスの調整を意識した販売対応が必要。		
シャコバサボテン	実績	2021年	6,975	395
		2022年	5,298	450
	績	2023年	4,538	475
		2024年	3,270	438
		2025年	420	612
		5ヵ年平均	4,100	438
		2026年見通し	0	0
概要		8月は暑さの影響を避ける為に入荷は見込めない。9月暫くしてからの出荷となるが、遅れている分が後半で増える事にはならない見込み。		
バラ及びミニバラ	実績	2021年	2,308	139
		2022年	2,003	172
	績	2023年	4,758	135
		2024年	2,868	147
		2025年	2,393	155
		5ヵ年平均	2,866	147
		2026年見通し	2,200	169
概要		入荷量は前年より減少か。経費面や気候による生産環境の変化に加え、湿度や暑さなどにより時期的な買い控え・安値予想も影響。量が少なくなっても買い控えは変わらない為、安値となる見込み。		

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	2021年	1,328	692	
		2022年	1,493	497	
		2023年	829	817	
		2024年	310	692	
		2025年	348	904	
	5ヵ年平均		862	666	
	2026年見通し		300	850	
	概要	入荷量は前年よりやや減少か。アロハイワナの5～6号寄せ鉢が中心となる見込み。生産、入荷量の減少で価格は安定する見込み。			
スパティフィラム	実績	2021年	2,277	503	
		2022年	1,701	438	
		2023年	2,560	326	
		2024年	1,219	349	
		2025年	1,575	479	
	5ヵ年平均		1,866	419	
	2026年見通し		1,500	467	
	概要	入荷量は前年より4～5号を中心に大幅に減少か。生産環境の変化とコストアップにより生産減の傾向が強い為、入荷減の見込み。また、夏場の高温状態もあり、9月以降も少なめとなる見込み。			
ドラセナ類	実績	2021年	16396	1,165	
		2022年	14780	1,022	
		2023年	8334	1,163	
		2024年	6918	1,397	
		2025年	7913	1,156	
	5ヵ年平均		10868.2	1,154	
	2026年見通し		6800	1,176	
	概要	入荷量は前年より減少か。輸入原木を使用したコンシンネの生産量が著しく減少しているのが要因か。4～6号についても減少が見込まれ、全体的に品薄感が強まる可能性有り。8号以上の大型商品は生産に長期間を要することに加え、輸入原木価格の高騰の影響を受けており、生産量はさらに絞られる見通し。			



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポートNo.636
2026年8月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434